

# さぎょうば通信

第 58 号 ～NPO ニュース共同特別号～ 2020年5月28日

発行者: (特非)おんがくの共同作業場  
代表理事: 渡部 智也  
〒190-0012 東京都立川市曙町 2-25-1  
カクニ第2ビル3F カンマーザール内  
TEL 042-522-3943/FAX 042-522-3937  
URL: <http://www.gmaweb.net/npo/>  
e-mail: [npo@gmaweb.net](mailto:npo@gmaweb.net)  
正会員 28 名 賛助会員 153 名(団体 2)

## ワシントンの合唱団で起きた合唱クラスターについての報告書

理事: 右近大次郎 (記事の翻訳者)

本件が日本で最初に報道されたのは、岐阜の合唱クラスター化のニュースが飛びまわっていた時期と丁度重なっていました。当該記事においては、イスは十分な距離をとり、お喋りもなく、身体接触や飲食も無かったというものでした。そのため、エアロゾルによる大量感染の事例として強く記憶に残るものでした。

しかし、お読みいただいた方はお気づきだと思いますが、本件は典型的な 3 密状態による練習と会話が主な原因になっており、一部の人の飲食も含めれば、歌の部分がかどの程度影響しているのかは、ミュンヘンの記事 (⇒ 音場ニュース 5/28 号参照) と合わせて考えると、いまいち分からないという印象を持ちました。

そのため、この記事から皆さんに持ち帰っていただきたいことは、友人との語らいや会食がどれほど危険かということ、さらに、マスクや手洗いなど衛生面の大切さです。

せっかく久しぶりに会えるのにもと思うかもしれませんが、ひとつ間違えれば歌うことも出来なくなるということをしつかりと胸に留めていただければと思います。

3月17日、ワシントン州スカジット群にある合唱団(122名)は、地元の保健所に、複数の団員が病気になったことを報告した。調査の結果、33人が陽性、別の20人に徴候があった。合計55人のうち、3人が入院し、2人が死亡した。

<経緯>合唱団は毎週火曜日の夜に練習している。3月15日に、合唱団の指導者から全体にメールで、3月11日から12日の間に少なくとも6人の団員が熱を出し、そのうちの2人はテストを受け、結果を待っているという連絡があった。

3月16日までに、3人が陽性と確認された。しかし、保健所のほうには、感染経路の可能性については報告がなかった。3月17日、合唱団の指導者は再びメールを全体に送信した。

3月11日からこれまでの間に、24人の団員がインフルエンザのような症状を出しているという内容であった。

3月18-20日(115人)と4月7-10日(117人)にインタビューによる調査が行われた。質問には合唱練習以外のイベントへの参加についても含まれていたが、合唱練習以上に可能性のあるイベント参加歴はなかった。3月3日の練習では、徴候があった者は居なかった。しかし10日の練習では、徴候があった人が居た。この1人は3月7日から徴候が始まっていた。調査の結果、この人は3月3日の段階で感染していたことが分かった。整理すると以下ようになる。

3月3日 練習	感染者1人: 無症状のため未確認だった
3月7日	上記感染者に症状が現れる
3月10日 練習(61名)	上記感染者参加
3月11-17日	24人がインフルエンザのように発熱、更に別の3人が陽性

☆最終的には、11日から15日に間に集中して49名が病気になっており、合唱練習がクラスターになったと考えられる。

<3月10日の練習の様相>練習時間18:30~20:00

1列20脚が6列(120席)、中央が通路で分かれている。この椅子は早めに来た団員が準備した。椅子は6-10インチ(15.24cm~25.4cm)程度離されていた。61名が参加し、皆いつも座っている椅子に座った。したがって、隣の席が埋まっていた人と、空いていた人が居た。最初に40分間一緒に練習した後、2グループに分かれ、50分間の練習を行った。1つのグループは小さい部屋に移動した。そこはベンチ椅子だったので、詰めて座った。大きい部屋に残ったグループも、この時に席を移動して、詰めて座った。この練習の後15分の休憩を取った。その時、大きい部屋の後ろの方に、クッキーやオレンジが用意されていた。ただし、多くの団員は、食べていないと証言している。休憩後に最後の45分間、最初の席に戻って練習をした。終了後はみんなで椅子を戻し、全員寄り道をせず、帰宅した。誰もハグやキスなどの身体接触はしていないと証言している。

3月10日の61人の参加者のうち、すでに感染していたと思われる1人を除き、52人が病気になり、3人が入院し、2人死亡した。また、陽性は33人であったが、残りの19人は、テストを受けていない。

このような大きいクラスターは稀であるが、合唱練習は長時間一緒にいるため、飛沫感染、接触感染、会話や歌によるエアロゾル感染の危険性が高い。マスクの着用と、6フィート(182.88cm)のソーシャルディスタンスを取ることで、密閉・密集・密接を避けることが推奨される。

☆保健所に報告された時点で、ほとんどすべての団員が自己隔離を行っていたおかげで、さらに拡散にはつながらなかった。

**＜おうちで楽しむ小さな演奏会＞の配信始めました！  
届いていない方はメールアドレスをお知らせください。**

**これからのコンサートのあり方**

すてきな動画の数々送信、ありがとうございます。コロナ禍での「緊急事態宣言」で自粛生活の毎日だけに、これはとても癒されます。

動画第1弾は私には耳慣れない曲なので大変興味深かったです。第2弾はお家で楽しむ小さな演奏会。とてもアットホームで、音楽はもとより家族関係の温かさも伝わって来て、大変すてきでした。親子で共演できるなんて理想的なことですが、どのように子育てすれば可能なのだろうと、家庭教育も知りたくまりました。第3弾は馴染みある曲なので癒されました。やはり「花は咲く」は東日本大震災を思い出し、特に感慨深いです。そして、あの3・11直後から、迅速に、おんがくの共同作業場が「チャリティーコンサート」「音楽復興支援基金」等の取組を継続してくださったことを今でも心から感謝しています。

さらに、今回もまた、おんがくの共同作業場からの声掛けで、この動画が完成とのこと。とても素晴らしい取組だと思えます。実は、この動画配信前、「立川第九」で共演して頂いた日本フィルが『クラシックちよい聞き日本フィル』としてネット無料提供(テレビマンユニオン配信)していたので、私はその取組に感心しながら聴かせて貰っていました。おかげで本格的なコンサートと、気軽なアットホーム演奏との、両方を楽しむことができました。そして何より、3・11やコロナ禍などの「非常事態時」だからこそ気付く、皆でこのように励まし合うことの大切さと、「音楽が持つ連帯の力の重要性」を実感しました。

ところで、音楽の重要な力は、平時での運動会・学芸会・卒業式など学校行事の際にも深い感動を呼び起こします。しかし、学校は今、3か月も休業という「今迄に経験したことのない非常時」にあり、まもなく開校したとしても、常にソーシャルディスタンスを保つことが必要です。そのため音楽では飛沫感染防止のため大声では歌えず、友達との遊びでも一定間隔を空け、残念ながら集団行事は中止せざるを得ません。一方、手洗い徹底のためには校内放送「手洗い歌」が有効で、音楽に合わせて楽しく洗う子供達の姿を想い浮かべながら選曲しています。

ここでも「非常事態時」だからこそ気がつく、遊びや学びのあり方、そして「授業や日常生活での音楽の大切さ」を改めて実感しながら工夫・苦心・準備する毎日です。

他方、コロナ禍終息を強く願いますが、一部報道では「再び、秋・冬に第二波も予想される」とのこと。そんな時、潤いのある豊かな生活に益々音楽は不可欠なだけに、授業や遊びの中で「子供の心に響く曲、一定間隔をとっての遊び歌、大声を出さずに楽しめる歌」や、オンライン授業なども加味した、平時にはない発想での感動体験を求めて、何か良いアイデアはないものかと模索中です。(一会員)

**『緊急事態舞台芸術ネットワーク』が開設されました**

<http://www.jpasn.net/>

このネットワークは、今回の新型コロナウイルスのような緊急事態にのみ活動します。すなわち、舞台芸術全体が公演中止に追い込まれそうな時、もしくは追い込まれた時においてのみ活動します。主たる目的は社会と共にいかにして舞台芸術の公演を再開していくかにあります。表現方法の違いを越えて「ライブの舞台を通しての表現者」として、舞台芸術界がその緊急事態から脱却し、安全な状況で再開され再生していくために、互いに連携し協力し、情報を共有し合い、交渉事、会議などに臨んでいきます。

これは、個々舞台芸術団体の権利、経済的自由を守るためだけでなく、舞台芸術界全体、ひいては日本文化を守るためでもあります。勿論、こうした舞台芸術の公演の再開に当たっては、同時に緊急事態で危機的な状況にある社会との親和性を図りながら進めていきます。

**5月14日 公益社団法人全国公立文化施設協会が  
＜劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス  
感染拡大予防ガイドライン＞を発表しました。**

<https://www.zenkoubun.jp/>

これは政府の方針を踏まえ作成されたもので、その内容は今後の対処方針の変更や、新型コロナウイルスの感染地域における動向や専門家の治験、公演主催者の意見を踏まえ、必要に応じて適宜改訂が行われます。

これをもとに新日本フィルハーモニー交響楽団は7月のコンサートに向けてお知らせを発表しました。withコロナのコンサートはこれまでとは随分変わったものになりそうです。一部抜粋して掲載いたします。

<https://www.njp.or.jp/news/17881>

- ・入場時には体温チェックをさせていただきます。  
37.5度以上の方は入場をお断りさせていただきます。
- ・開演前、休憩時間の際は、極力会話を避けるようご協力をお願いいたします。スタッフも極力声を出さないようにいたしますことをご承ください。
- ・チケットご購入者と演奏会ご来場者のお名前が異なる場合は、開催日までにご来場される方のご住所、お名前、電話番号を弊社までお知らせください。
- ・プログラムや配布物の手渡しはいたしません。  
会場内に置かれている冊子をお持ちください。
- ・チケットはご自身で切り所定のボックスにお入れください。
- ・スタッフは全員、手袋、マスクを着用いたします。
- ・お客様におかれましても入場時の手指消毒、マスク着用なき入場はお断りいたします。
- ・飲食物の販売は休止させていただきます。
- ・「ブラボー」等の掛け声は禁止とさせていただきます。
- ・手すりは消毒いたしますが手を触れないようお願いいたします。
- ・クロークは閉鎖させていただきます。

**＜また、舞台は以下のような対応を考えております。＞**

- ・全ての出演者・スタッフの体調チェックは万全を期します。  
(検温、体調管理等)
- ・弦楽器1.5メートル管楽器は2メートルを目安に間隔を拡げます。
- ・金管楽器の吹き出し口には不織布を装着します。
- ・管楽器の唾(水分)は使い捨ての給水の良い紙や布  
(要洗浄)で処理します。
- ・奏者はマスク、ゴーグルを装着いたします。
- ・ホール内は換気されていますが、換気を強化するために上手、下手のドアは解放させていただきます。

おんがくの共同作業場では  
今回のコロナ対策のために  
ご寄付を募っています。  
ご寄付はホームページから  
お願いいたします。



<http://www.gmaweb.net/npo/donation>